

宣 誓

本日は、お忙しい中、私たちのために新入職員歓迎式を開催していただき、誠にありがとうございます。また、小口理事長をはじめ、多くの皆様にご臨席を賜りましたことを、心より御礼申し上げます。

本日、我々、新入職員一同を温かく迎え入れていただけたことに、大きな喜びと感謝の念を抱いております。昨年、本機構は20周年という節目を迎えられ、未来に向けて新しい価値を届けようとされている原子力機構の一員となるにあたり、その社会的責任の重さに身が引き締まる思いです。

現在、世界的に脱炭素社会の実現に向けた動きが加速し、エネルギー安定確保の観点からも原子力の価値が再評価されています。機構が掲げる『『ニュークリア×リニューアブル』で拓く新しい未来』というビジョンのもと、原子力技術がエネルギー分野にとどまらず、医療や産業など幅広い領域で社会を支えることが期待されていると感じています。

私は、ユビキタス分野である医療用RIの研究開発に携わり、人々の「健康」と「命」に直結する価値を社会に届けたいという思いから、本機構を志しました。医療用RIを活用した研究を推進し、診断・治療を支える技術の高度化や安定供給に資する取組に挑むことは、「人類社会の福祉と繁栄に貢献する」という機構のミッションを体現するものであると確信しております。

研究の遂行にあたっては、安全確保という重責を念頭に置き、専門家としての研鑽と高い倫理観を維持し続けます。また、広い視野をもって多様な知見を取り入れ、自ら掲げた目標の達成に向けて主体的に取り組んでまいります。その上で、社会からの信頼を礎として、一つひとつの業務に誠実に向き合い、研究成果を社会に還元する視点を常に持ち、関係者との連携を重ねながら、価値の創出に努めてまいります。

本日より私たちは、原子力機構の一員として社会人の第一歩を踏み出します。未熟な点も多く、先輩職員の皆様にご指導を仰ぐ場面も多々あるかと存じますが、自ら学び、組織の発展と未来の社会に寄与できるよう精進いたします。

最後に、原子力科学技術を通じて、人類社会の福祉と繁栄に貢献することを、ここに固く誓い、宣誓の言葉とさせていただきます。

令和8年4月1日
新入職員代表 朝岡 陽香